

のテーブル内に納める爲に特に棚が作つてあります。交直何れの電流にも接続せられる此の器械によつて、捲線の切斷、短絡、接地並に其の不良ヶ所を容易に決定する事が出来ます。本器は磁石を有する二個のコイルと載頭受話機から成つて居ります。其の使用法は廻轉子の個々の捲線を一個のコイルで出来た磁場に持つて來て他の一個のコイルを同じ捲線の上に摺動し受話

機を以て此の摺動コイルに誘導電流が有るか無いかを決定するのであります。この誘導電流の有無は夫れ相應の雜音が聞える事によつて明になります。誘導電流の存在する時は其の場所に短絡があるのであります。接地の發見には絶縁試験器を用ひるか又前述の配電盤に於けるグリムランプを用ひます。

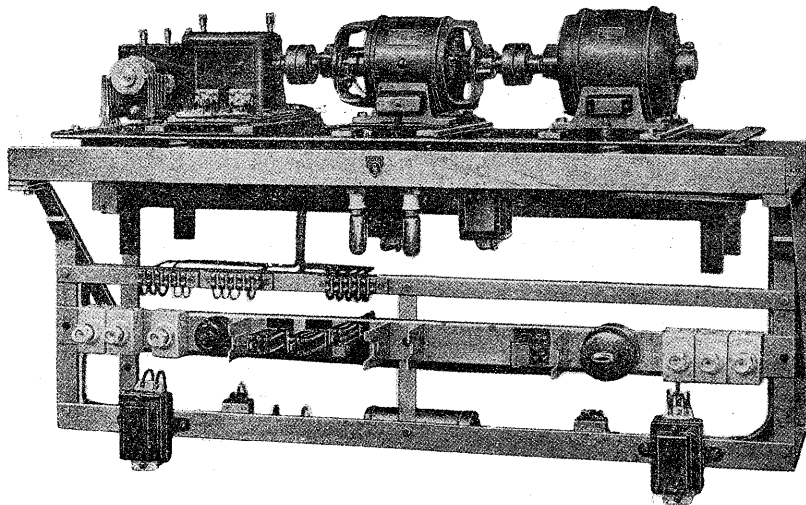
### 電話用新型信號發生裝置

従來大容量の電話裝置の信號音發生裝置としては電動發電機二臺を併置し、一方は常に交流電源に接続し、他は豫備として、停電の場合蓄電池によつて働くことゝなつて居りました。然るに本装置は、之を廻轉變流機及び之と直結する、電動機を一組にまとめ、働作上特に豫備の必要がなくなつたのみならず、通話接続の際のみ働くことゝなつたものであります。

即加入者が送受器を舉げると同時に、蓄電池により廻轉變流機を起働せしめ、或る廻轉數に

達して規定電壓になれば直ちに自働的切替り、交流電源により電動機を働作せしめます。そして前述のやうに廻轉變流機は之と直結されて居りますから、その二次側より呼出に必要な交流 60 ボルト、25 サイクルの電流を發生いたします。

若しこの場合交流電源が停電すれば直ちに繼電器接點の切替によつて再び廻轉變流機が蓄電池に接続せられ依然信號電流を送出することが出来ます。





\*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する  
商標または登録商標である場合があります。